

長岡工業高等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	専攻科ゼミナール
科目基礎情報				
科目番号	0008	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	物質工学専攻	対象学年	専2	
開設期	2nd-Q	週時間数	4	
教科書/教材	担当教員指定			
担当教員	物質工学科 全教員			

到達目標

(科目コード : A2030、英語名 : Advanced Seminars)

この科目は長岡高専の教育目標の(G)と主体的に関わる。この科目的到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で次に示す。

①日本語や英語の文献を通して技術者・研究者倫理を理解する。(G1)40%

②情報検索技術を習得し、必要な情報を整理する能力を養う。(G2)40%

③日本語や英語の文献を通して得た情報を整理し、内容を説明し問題点を提案する。(G2)20%

ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
① 日本語や英語の文献を通して技術者・研究者倫理を理解する。	到達目標①について80%以上習得している	到達目標①について70%以上習得している	到達目標①について60%以上習得している	到達目標①について60%以上習得していない
② 情報検索技術を習得し、必要な情報を整理する能力を養う。	到達目標②について80%以上習得している	到達目標②について70%以上習得している	到達目標②について60%以上習得している	到達目標①について60%以上習得していない
③ 日本語や英語の文献を通して得た情報を整理し、内容を説明し問題点を提案する。	到達目標③について80%以上習得している	到達目標③について70%以上習得している	到達目標③について60%以上習得している	到達目標①について60%以上習得していない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現在、化学・生物化学関連の論文は、ほとんどが英文で出版されている。そのため英語論文の速読はきわめて重要なとされる。特別研究指導教員の下で、研究テーマに関連した論文等を読むことによって、英語論文の速読力を身に付けるとともに研究テーマの基礎知識、背景や最新の情報を得ることを目指す。【クラス分け・複数教員担当方式】所属研究室に分かれて行う。 ○関連する科目： 物質工学特別研究Ⅰ（専攻科1年次履修）、物質工学特別研究Ⅱ（専攻科2年次履修）
授業の進め方・方法	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う。
注意点	基礎的な英語力は必須である。正しい情報を早く読むことは絶対に必要な技術で、ぜひ身に付けること。また、膨大な量の技術関連情報から、目的の情報を検索・選択する能力の習得は今後さらに重要となる。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	2ndQ	9週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		10週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		11週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		12週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		13週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		14週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		15週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	
		16週	各研究室で、少人数ゼミ（英語論文の検索、速読、プレゼンテーションの手法の習得）を行う	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	レポート	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	50	50
専門的能力	50	50
分野横断的能力	0	0